

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は南河内地区唯一の夜間定時制高校である。働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な事情・目標を持って入学してくる生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を展開し、生徒に基礎・基本の学力を定着させるとともに、自尊感情と自己有用感を高め、志と生活力のある社会人を育成する。また、地域との連携を深め、地域から信頼され必要とされる学校づくりを充実させる。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の基礎学力を向上させる。

- ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT 機器活用を推進し授業内容・方法の改善を進める。
- イ 生徒の基礎学力の定着をめざした授業方法の開発・実践を行う。
- ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの推進。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。

- ア 生徒の実態に合った基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の充実を図る。
- イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、高度な技能・技術など本物に触れる教育を実施する。

※生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」の肯定的回答(平成 29 年度 63.8%)を 2020 年度には 65%以上に引き上げる。

2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ

(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

- ア 「農園実習」やボランティア活動を通して、豊かな人間性、自尊感情や自己有用感を育む。
- イ 「寄り添う教育」を基幹としながらも、校則の遵守や学習規律の向上など生徒の規範意識の醸成に取り組む。
- ウ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。

(2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

- ア 入学時から教育活動全体を通じて進路指導を行い、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。
- イ 実践的な職業教育を通じて社会人としての資質や能力を高めるとともに、進路につながる資格取得のための支援を充実させる。

※進学希望者の進学率 100%をめざし、就職希望者の内定率(平成 29 年度 60.9%)を、2020 年度には学校斡旋就職希望者の内定率 70%をめざす。

(3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。

- ア 中高連携・人間関係や居場所づくり・基礎学力養成講座など、中途退学・不登校を減少させるための取り組みを行う。
- イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(面倒見のよさ など)(平成 29 年度 66.9%)を、2020 年度には肯定的回答を 70%以上に引き上げる。

※教育相談体制をさらに充実させ、生徒向け学校教育自己診断における担任以外に相談することができる先生がいる(平成 29 年度 55.08%)を、2020 年度には 60%に引き上げる。

3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 生徒たちの安心と安全のための取り組みの充実を図る。

- ア 校内の教育相談体制を充実させ、生徒が気軽に相談できる雰囲気作りに努める。
- イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。
- ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育を学校全体の教育活動全体を通じて取り組む。

(2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

- ア 長期欠席等の生徒の状況を家庭に連絡し、保護者への協力を得るなど家庭と連携した生徒の出席状況の改善を行う。
- イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深め生徒理解や生徒支援の充実を図る。
- ウ 近隣幼稚園等の園児、地域の方を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を深め、「クリーンキャンペーン」等の取り組みを通じて、地域と共に歩む学校づくりを進める。
- エ 転編入生を受け入れ、卒業まで導くサポートを行い、地域の「学び」のセーフティネットとしての定時制の役割を果たす。
- オ 生徒が安心して学校生活を送れるための合理的な配慮を推進し、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(面倒見のよさ など)(平成 29 年度 77.0%)を、2020 年度には 80%に引き上げる。

4 学校運営の活性化と教職員の資質向上

(1) 学校運営の活性化を図る。

- ア 准校長のリーダーシップのもと PDCA サイクルによる学校経営を推進する。
- イ 働き方改革を進めるため、分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、生徒の状況や配慮事項等の情報共有を行い、速やかに課題解決に臨む。
- ウ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。

(2) 教職員の資質向上を図る。

- ア 日常的な OJT の推進、校内研修の活性化を行う。
- イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。

※平成 30 年度は校内研修、報告会を年間 5 回以上実施を継続し、人材の育成や情報の共有などを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒・保護者・教員について、昨年度との変化をみるために、同じ質問項目で実施した。提出率は、生徒 74.8%→60.5%、保護者 64.3%→65.0%、教員 96.7%→100%であった。生徒の回収期間を長くする必要がある。</p> <p>生徒については、全 13 項目中、肯定的回答の割合が増えたものは 12 項</p>	<p>第 1 回 7 月 6 日(金)</p> <p>・藤井寺工科(定)は、10 年間で大きく変化した。親しみが持てるようになった。地域とのつながりを深めるために実施されている募りも、幼い子供だけでなく高齢者、住人全員が楽しみにしている。クリーンキャンペーンも、脈々と繋がっている。地域</p>

<p>目と改善が見られた。</p> <p>保護者についても、全 14 項目中、すべての項目で肯定的回答の割合が増えた。</p> <p>教員については、全 54 項目中、肯定的回答の割合が 10% 以上増えたものが 5 項目。5~10%増えたものは、8 項目あった。今年度は肯定的回答の割合が 10% 以上減少したものは 4 項目あったが、全体的には改善がみられたと考えている。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>生徒「わかりやすい授業が多い」(63.8%→65.2%)、保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」(50.5%→62.3%)、教員「教材の精選・工夫を行っている」(93.1%→96.3%)「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている。」(93.1%→88.9%)であった。教員が日々、授業内容を工夫改善しながら実践し、その効果が徐々に生徒や保護者の診断結果にも表れてきている部分もあるが、更なる授業改善が求められる。</p> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒「学校に行くのが楽しい」(63.1%→61.6%)、「先生は生徒のことを、よく見て対応してくれる」(70.6%→82.2%)、「学校生活について、先生の指導には納得できる」(66.9%→81.3%)、保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」(76.5%→88.7%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている」(79.0%→92.5%) 教員「生徒指導において、家庭との連携ができています」(93.1%→96.3%)。若干評価がダウンした項目もあるが、常日頃より教員が生徒個々に丁寧に指導を行っていることが、生徒や保護者の理解と信頼を示す結果になっていると考える。 生徒「人権の大切さについて学ぶ機会は多い」(56.3%→67.8%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」(65.7%→74.1%)、保護者「学校は、生徒に生き方を考えさせ、豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(83.2%→88.7%)、「学校は子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」(84.9%→91.5%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」(80.7%→87.7%)等、教科以外の教育活動の内容についても好結果が得られている。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員「准校長は日頃から、教育方針や学校運営方針を教職員に話している」(89.7%→96.2%)、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」(79.3%→88.8%)、「研修に参加した成果を他の教員に伝える機会が設けられている」(44.8%→62.9%)等、学校組織に関する質問項目 16 項目のうち、9 項目で肯定的な意見のアップがみられた。 「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされている」(75.9%→62.9%)「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」(51.7%→37.0%)などダウンした項目については、適材適所の人員配置検討や授業見学週間の設定等、改善できるようにする。 	<p>住民も喜んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携は、これから生徒が社会とつながりを持つ上でも大事なのではないかと。ボランティア生徒が幼子に世話をすることで、自己有用感を抱くのではないかと。 特に『なごみカフェ』の運営は、居場所のない生徒にとって、先生に寄り添ってもらえ、ありがたいことだ。なごみカフェ以外にも図書室・HR 教室等、生徒それぞれの居場所の選択肢がいくつもあるのが良いのではないかと。 生徒が、学びたいという気持ちを大事にもらっている学校である。藤工(定)は、自己有用感や自尊感情に気付かせてもらえ、実感できる学校である。 福祉教育に関わり、学生を指導しているが、エリクソンの『人は“必要とされること”を必要とする』を自覚することができている。 多様性の時代、偏差値だけで輪切りするような学校ではなく、コミュニケーション力不足の生徒も就職できるよう指導する学校こそ残すべき。 松浦 S S W の紹介で、本校の学校運営協議会委員になったが、本校のような取り組みを継続してもらいたい。生徒を信用する姿勢に感銘を受けた。 <p>第 2 回 12 月 14 日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断に関して、前年度より良くなっていることに感心する。 PTA 活動に多くの方に参加してほしい。ぜひ、継続して呼び掛けてもらいたい。 S C も S S W も、生徒の立場に立って、温かく見守り、頑張ってくれている。 生活体験発表生徒のスピーチを聞いて、今までがどうであれ、人って変わるんだなあと非常に感動した。 地域を巡回していると思うが、若い先生方が良くやってくれている。日頃から活発に活動されている。藤工フェスティバルでも若手教員のが先陣を切ってパフォーマンスをされていた。地域として、これからも連携・協力していきたいと思う。 中学校の卒業生徒の減少に伴って、学校の統合・編成が進む中で、藤工定は生徒と教員の信頼感ができている。その特色を生かして存続してもらいたい。また、中学校訪問の際は、偏差値で高校を区切らないように、呼び掛けて頂きたい。外は寒かったが、藤工(定)の影響で、心が温かくなった。 <p>第 3 回 2 月 18 日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの 4 段階評価で、総合平均 3.5 という結果は非常に高いと思う。藤井寺工科定時制の教員全員の熱心さ、努力が現れていると思う。 定時制高校は生徒にとって、大事な居場所であると思う。勉学に励むことも大切だが、人との信頼関係を築くのが教育の本質であると思う。信頼関係を基に学校は卒業しても帰る事の出来る場所であるべきであると思う。 藤井寺工科高校定時制は S S W との役割を明確に分担されており S S W にとっても働きやすい職場であると思われる。是非、この方針のまま続けてもらいたい。 『生徒を信じれば変わる』を実証していると思う。門当番で、様々な教員が生徒と話をする機会に繋がっていると思う。 中学校の先生に、進路の選択肢としての定時制の存在を理解してもらえれば、もっと志願者数が増加すると思われる
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 生徒の基礎学力を向上させる (2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。	(1) ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT 機器活用を推進し授業内容・方法の改善を進める。 イ 生徒の基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の一環として学び直しを目的とした、反復練習を主としたモジュール授業(理数、国、英)を1年生中心に継続・拡大する。 ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの推進。 (2) ア 特別非常勤講師や高度熟練技能者等の外部講師を積極的に活用し、生徒の興味・関心が深まる授業づくりや資格取得指導、進路講話など生徒のキャリア意識が高まる本物に触れる教育を実施する。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」を、65%以上に引き上げる。(29 年度 63.8%) イ 年度最初の診断テスト結果より1 月実施の診断テストでの正答率 3% アップを達成する。(29 年度 56%) ウ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、授業づくりの職員研修を実施する。(年 1 回) (2) ア 外部講師の実践による指導を活用し、300h の授業に関わってもらう。(29 年度 383h)	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」は、65.2%と目標を達成できた。ICT 機器を使用する教員が増加した結果である。次年度はさらなる活用・向上をめざしたい。(○) イ 年度最初の診断テスト結果より1 月実施の診断テストでの正答率 6.9% アップを達成できた。達成度を視覚化した成果である。次年度も継続する。(◎) ウ 岸田ひろ実氏を講師に迎え、ユニバーサルデザインマナー研修を実施した。教員は弱者に寄り添う視点を取り入れた授業づくりを行った。(○) (2) ア 外部講師の実践による指導を 372h 授業に活用した。在籍生徒が減る中、次年度も現状を維持していきたい(○)

府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心のはぐくむ	<p>(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。</p> <p>(2) キャリア教育の充実・資格取得の充実を図る。</p> <p>(3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。</p>	<p>(1) ア 「農園実習」やボランティア活動を通して、豊かな人間性、自尊感情や自己有用感を育む。 イ 校則遵守、学習規律など生徒の規範意識の向上を図るとともに、規範意識の醸成を育むための地域貢献として、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。 ウ 校種間連携を通じ、支援学校等との共同学習を実施する。</p> <p>(2) ア 職場体験や学校見学など、生徒の進路実現の支援を充実させる。 イ 進路につながる資格取得の推進を通して、キャリア教育の充実を図る。 ウ 生徒の進路が実現できるように、資格取得のための支援を充実させる。</p> <p>(3) ア 中高連携・人間関係・居場所づくり・基礎学力講座等を通じ、中途退学・不登校を減少させるための充実に重点をおき、家庭はもちろん生徒の雇用主とも連携を深め、授業への出席率を向上させることで中途退学の減少に取り組む。 イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度 70%にする。(29年度 66.9%) ボランティア参加者数 50人以上を維持する。 イ 平成 30 年度も、「クリーンキャンペーン」を年間4回実施継続する。(29 年度 4 回) ウ 平成 30 年度も、年2回の支援学校との共同学習を継続実施。(29 年度2回)</p> <p>(2) ア 平成 30 年度は、進学希望者の進学率(29 年度 57%)を 65%に、就職希望者の内定率(29 年度 60.9%)を 65%にする。 イ 平成 30 年度は、資格取得数を、年間延べ トータル数 75 以上をめざす。(29 年度 73)</p> <p>(3) ア 中途退学率を、前年度比1%減少させる。(29 年度 9.13%) イ 平成 30 年度は、SSW や SC も含めた、ケース会議やコア会議を 10 回以上実施する。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度は、72.6%であった。教員の生徒一人一人に寄り添った教育活動を推進・継続したい。(◎) ボランティア参加者数は、51 人だった。自己有用感を育成すべく、啓発していきたい(○) イ 平成 30 年度も、「クリーンキャンペーン」を年間4回実施した。地域からも感謝と期待を受けているので、次年度も継続する。(○) ウ 支援学校との共同学習は、年 2 回実施した。支援学校生への気配りができるようになり、本校生は頼られる存在としての自信が付いた(○)</p> <p>(2) ア 本年度、進学希望者の進学率は、100%、就職希望者の内定率は、69.7%である。入学年度より年次進行でキャリア教育を実施し、生徒自ら進路選択をし実現できるようアシストする。(◎) イ 本年度の資格取得数は、年間延べ トータル数 81 であった。それも、高校在学中に取得困難な上位段級を取得する生徒が出てきた。個々の能力に応じた指導を継続する。(◎)</p> <p>(3) ア 中途退学率は、5.4%である。『なごみカフェ』や心の相談室等の居場所を確保し、教員がこまめに対応した成果である。今後も校内での居場所を確保し対応していく。(◎) イ 本年度、SSW や SC も含めた、ケース会議やコア会議を 12 回実施した。SC のカウンセリングや、SSW のアドバイスで不登校生が登校を再開できた。(○)</p>
3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	<p>(1) 生徒たちの安心と安全のための取り組みの充実を図る。</p> <p>(2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。</p>	<p>(1) ア 多様な生徒・保護者の相談や、相談需要数の増加をうけて、より一層、教育相談体制の充実を図りスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を図る。 イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。 ウ 薬物乱用防止教育の充実を図る。</p> <p>(2) ア 保護者懇談会の充実や学年通信等を発行する等、家庭との連絡を頻繁に行い、家庭との連携を深める。 イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、生徒理解や生徒支援のための中学校との連携を深めるとともに、本校の教育活動の広報を行う。 ウ 近隣の幼稚園等の園児、地域の人々を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続し本校の教育活動への協力と理解を深める。 エ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、合理的配慮を推進するための研修会を実施する。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる。」を60%に引き上げる。(29 年度 55%) イ 平成 30 年度も、交通安全教室を年間3回開催。(29 年度は3回) ウ 薬物乱用防止教室を年間2回以上開催する。(29 年度は1回)</p> <p>(2) ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度 80%に引き上げる。(29 年度 77%) イ 生徒出身中学校全校訪問を維持(25 校以上)する。 ウ 年間に 10 団体程度を農園に招待する。(29 年度延べ 11 団体) エ 合理的配慮に関する研修会を 2 回行う。(29 年度2回)</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる。」が 58.9%であった。居場所活動や諸行事を通じて教員との接する時間を確保し、カウンセリングマインドを持って生徒に接するよう指導を行う。(△) イ 本年度は、交通安全教室を年間3回開催した。スクエア・ストレートの映像を活用した講習会や警察官からの講話も行った。次年度も継続する。(○) ウ 薬物乱用防止教室は1回開催した。早期から講演等を企画し実践したい。(△)</p> <p>(2) ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度は、81.7%であった。学校からの情報発信が、保護者に伝わっていると思われる。今後も継続する(◎) イ 生徒出身中学校 26 校を訪問した。現在 4 名の学校見学があるなど、定時制のニーズを発掘し、伝達していく。(○) ウ 年間に 11 団体、208 名を農園に招待できた。近隣地域の方々や幼稚園児・支援学校生徒等との交流が図れ、本校の存在意義が浸透してきている(○) エ 合理的配慮に関する研修会を 2 回行った。今後も SSW 等の方から、様々な角度からの研修を実践していく。(○)</p>
4 学校運営の活性化と教職員の資質向上	<p>(1) 学校運営の活性化を図る。</p> <p>(2) 教職員の資質向上を図る。</p>	<p>(1) ア 分掌会議・系列会議・教科担当者会議・いじめ対策委員会等を効率良く定例開催し、生徒の状況や配慮事項等の情報を話し合い、情報共有化を図り、業務分担の軽減を進める。 イ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。</p> <p>(2) ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を図る。 イ ミドルリーダーの育成や、経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。</p>	<p>(1) ア 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている(29 年度 82.7%)を 85%に引き上げる。ストレスチェックの総合リスク(29 年度 58)を、維持する。 イ 教育活動全般にわたる点検評価を行い、教員向け学校教育自己診断「次年度の計画に生かしている(29 年度 86.2%)」を維持する。</p> <p>(2) ア 各種校内研修を7回以上実施する。(29 年度7回) イ 外部研修会への推薦、参加者による校内研修報告会3回を実施する。(29 年度3回)</p>	<p>(1) ア 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」は、88.9%となった。各種委員会や打合せを実施し、生徒の情報等について教員間で共有できている。ストレスチェックの総合リスクについては、「55」と極めて良い結果が得られた。今後も、業務の平準化や風通しの良い職場状況を維持する。(◎) イ 教育活動全般にわたる点検評価を行い、教員向け学校教育自己診断「次年度の計画に生かしている」は、85.2%であったが、学校運営協議会の賛同・支持を得た。今後も体制を維持しつつ、新学習指導要領実施に向けて、新たな課題解決に向けてカリキュラムの検討を実施する(○)。</p> <p>(2) ア 各種校内研修は、7回実施した。今後も現状に即した校内研修を企画・立案・実施していき、教員の教育力を向上させる(○) イ 外部研修会へ延べ 15 人を推薦した、参加者による校内研修報告会は3回実施した。積極的に研修に参加する教員が多い。外部研修で学んだ内容を全教員で共有し活用したい(○)</p>